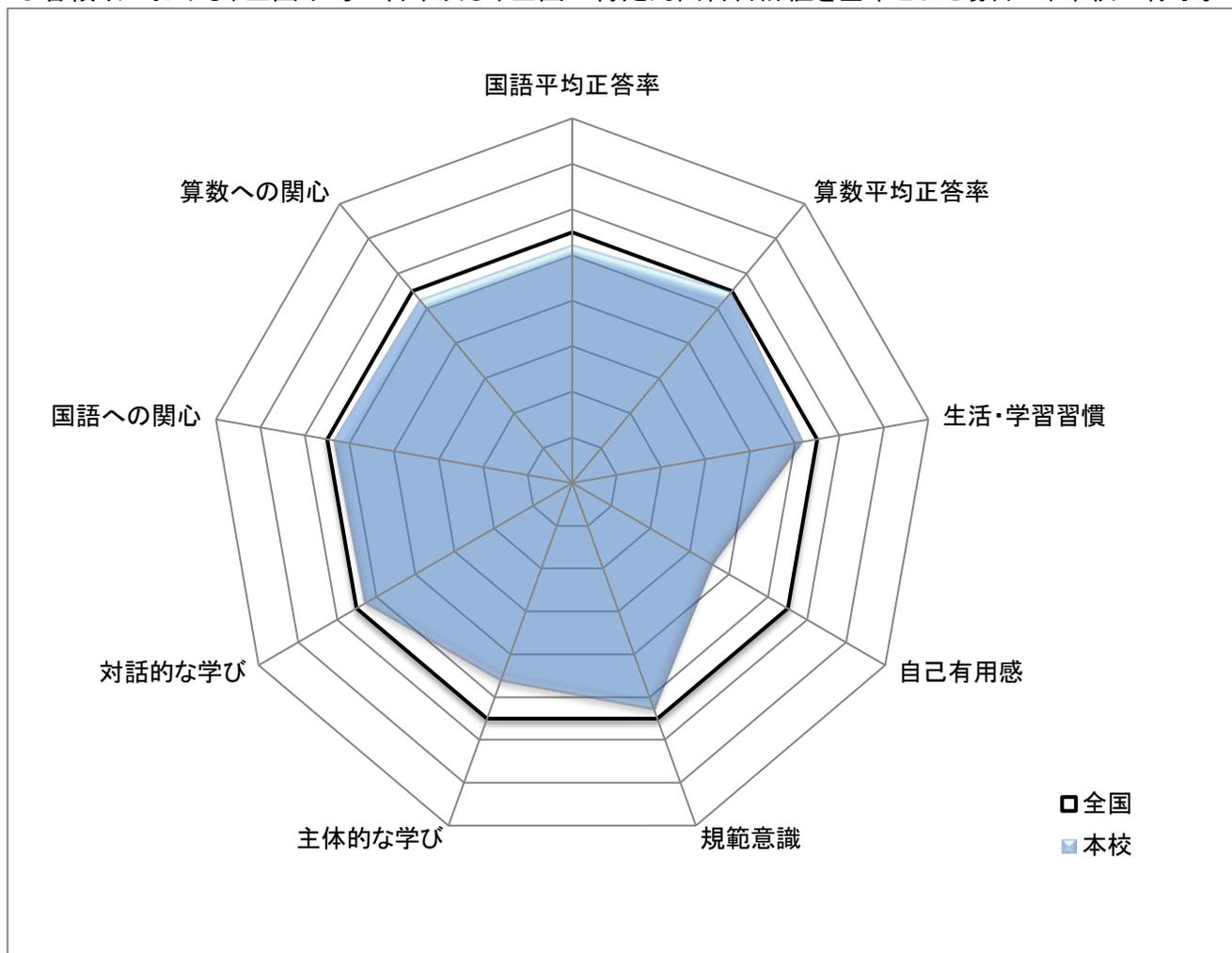


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・学年全体としては、学力の差が二極化している。学力が高い児童と低い児童である。
- ・学習に取り組む姿勢は向上したが、主体的に学ぶ姿勢が低いと感じられる。
- ・他人のために動いたり、活動したりする活動はコロナの影響もあり、できない状況であったのも低い原因であると考えられる。

《授業改善のポイント》

- ・国語や算数では基礎、基本の定着を図るように、繰り返し復習などに力を入れる。
- ・「主体的な学習」が向上できるように、授業では自ら課題を設定したり、児童の意欲が高まるような学習内容や学習活動を充実させていく。また、努力したり成果がでた時には、褒める活動も行っていく。
- ・「自己有用感」が向上できるように、感染症対策に留意しながら、ペア活動やグループ活動を積極的に増やしたり、自らの考えを広める活動を増やしたりして「他人の役に立っている、他人に喜んでもらった」と児童が思えるようにしていく。

《チャートの特徴》

- ・全体的に全校平均程度ある。
- ・顕著に表れているのは「主体的な学び」、「自己有用感」が本校の児童は低い。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習をしっかり行ったり、保護者会や個人面談で状況を正確に伝えていく活動を行っていく。